

# 通常の学級における発達障がい等支援事業

## 第1回地区別事業報告会(三島豊能地区)

平成25年9月25日15:30~17:00 (摂津市立三宅柳田小学校)

当日参加者105人(幼稚園・こども園31 小学校50 中学校7 その他10)

### 1. 実践報告

#### <摂津市立 せつつ幼稚園> 支援教育を活かした保育の推進

- ・すべての園児にとってわかりやすい保育をめざし、全教職員で園環境・保育ユニバーサルデザイン化を目ざしている。
- ・6月のアドバイザースタッフ伊丹先生の指導助言では、①支援が必要な園児の指導方法について…スキップのとりかたや肯定的な関わり ②家庭との関連、保護者対応について…課題とともに、保護者の関わりの良い点を伝える ③支援環境について…絵や、写真の活用 について指導助言いただいた。
- ・アドバイザースタッフ・サポートチームの指導助言を受け、園教職員全員で課題を共有し、今後は“学級集団の状況アセスメントシート”を活用し、集団づくりへの具体的な取り組みを進めていきたい。



#### <摂津市立 味舌小学校> 授業・学校生活におけるユニバーサルデザイン化の推進

- ・集中力が長く続かない児童、課題に向き合えずあきらめてしまう児童などに対して、「考えを伝えあい、学びあい、『できた・わかった』につながる授業づくり」に取り組んでいる。
- ・伊丹先生より「学校全体で環境整備や授業づくりに取り組んでいる」「姿勢のよくない児童が多く気になる」「目の使い方がよくない児童にはビジョントレーニングで改善する」「支援を受けずにいる<支援が必要な児童>の授業態度が気になる」「低学年からの支援が必要である」「先生方が授業に行く前に、鏡の前で自分の顔をもみ口角を上げて授業に臨むことが大事である」と助言をいただいた。
- ・今後は、自尊感情を育て、認め合える学級集団作りを推進するとともに、算数科を中心とする「どの子にもわかる授業づくり」を目指して具体的に取り組むを進めていきたい。

### 2. 伊丹先生による指導助言

(指導助言のポイント)

- ◆ユニバーサル・デザインの環境づくりは進んできている。それをUDL(ユニバーサル・デザイン・フォー・ラーニング)に変えていかなければならない。そのためには振り返りを行い、根拠のある支援が大切である。
- ◆教育的なニーズがある子どもの困り感をしっかり把握し、成功体験をいかに積み重ねさせるかが大切である。成長に合わせ unnecessaryな支援を減らし、自立を促すようにする。



<指導助言者>  
梅花女子大学 伊丹 昌一先生

- ◆プラスの循環を作るために保護者と教師の連携を重視し、お互いの努力と頑張りを認め合いながら、保護者支援を行うようにする。

# 通常の学級における発達障がい等支援事業 第2回地区別事業報告会(三島豊能地区)

平成26年3月3日15:30～17:00 (摂津市立三宅柳田小学校)  
当日参加者66人(幼稚園・こども園15 小学校35 中学校9 その他3)

## 1. 実践報告

### <摂津市立 せつつ幼稚園> 支援教育を活かした保育の推進

- ・すべての園児にとってわかりやすい保育をめざし、全教職員で園環境・保育のユニバーサルデザインをめざした。
- ・アセスメントシートを作成し、クラスごとに集団の傾向を把握した。「聞いて理解する力が弱い傾向が見られる場合は、丁寧に伝える」「抽象的なことをイメージする力が弱い傾向が見られる場合は、具体物を提示する」などの指導助言をいただいた。
- ・アドバイスを受け、クラスのみんが「わかった」「できた」と感じ成功体験を積み重ねていくことができるような視覚支援教材作りを行った。
- ・子どもたちの特性をふまえ、達成感を感じられるように効果的な支援を行うことで、意欲向上につながる事が分かった。また、必要がなくなった支援を少しずつなくしていき、子どもたちの自立へとつなげていきたい。



### <摂津市立 味舌小学校> 授業・学校生活におけるユニバーサルデザイン化の推進



- ・これまでの、伊丹先生からの指導助言を受け、「自尊感情を育て、認め合える学級集団づくり」を推進するとともに、算数科を中心とする「どの子にもわかる授業づくり」をめざして取組みを行った。
- ・校内で算数科の授業展開の基本について確認し合い、討議・対話(集団からの練り上げ)を行い、「子どもたちが話し合う場」を授業の中に設定した。
- ・伊丹先生から「子どもが理解するためにどのような支援が必要かを常に分析すること」「調査やアンケートを活用し、学校全体で支援する体制をつくること」が大切だとアドバイスをいただいた。

## 2. 指導助言

(指導助言のポイント)

- ◆ アセスメントシートを活用し、学級集団の傾向を知り、集団としての強み・得意を活かす取組みをする。
- ◆ 姿勢や鉛筆の持ち方など、学校全体の取組みにより、レディネスは整ってきている。教職員の共通理解も進んできている。適切な取組み・評価を行い、子どもたち自身が成長を実感できるようにする。
- ◆ 教職員が変わることで、子どもたちの様子も変わる。



<指導助言者>  
大阪府教育センター支援教育研究室  
関喜美史 総括主任指導主事

# 通常の学級における発達障がい等支援事業 第3回地区別事業報告会(三島豊能地区)

平成26年12月4日15:00~17:00 (摂津市立味舌小学校)

当日参加者147人(幼稚園・こども園6 小学校98 中学校18人 その他25)

## 1. 実践報告

### <摂津市立 せつつ幼稚園> 支援教育を活かした保育の推進

ユニバーサルデザインの視点から、保育環境を整備し、体制づくりの基盤をしっかりと作り、子どもたちにとって、優しい保育環境を提供できるよう取り組みを進めてきた。

アドバイザースタッフの伊丹先生のご指導のもと、言葉のユニバーサルデザインについての視点を取り入れることで、すべての子どもにとってわかりやすい言い方や伝え方を工夫し、成功体験ができるように努めてきた。

また、この事業を通じて、幼稚園と小学校が合同で研修会を開催することもでき、連携がスムーズになった。



### <摂津市立 味舌小学校> 授業・学校生活におけるユニバーサルデザイン化の推進



ユニバーサルデザインの視点を学校生活全体に取り入れて、だれもが過ごしやすい学校、わかりやすい授業のあり方について研究を進めてきた。

3つのサブテーマを

- ①自尊感情を育て、認め合える学級集団づくりの推進
  - ②授業・学校生活におけるユニバーサルデザイン化の推進
  - ③算数科を通して基礎基本の徹底と学ぶ意欲を高める授業の研究として、全教職員が共通理解のもと取り組んできた。
- ユニバーサルデザインの視点から環境整備を行うとともに、写真や劇を通じて、子どもにわかりやすく伝えるなど、今後も取り組みを継続していきたい。

## 2. 指導助言

(指導助言のポイント)

◆姿勢体操を効果的に取り入れ、姿勢が良くなった子どもが増えている。これからも継続して取り組むことが大切である。

◆各クラスに数名は、多動の児童がいる。授業の中で、動きを活かした活動を組み入れるなどの工夫をすることが効果的な指導につながる。

